

国指定重要文化財

広島県安芸国分寺跡土坑出土品

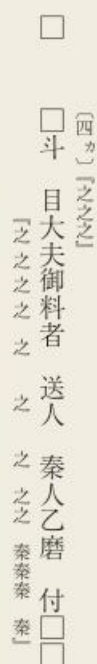


古代安芸国分寺の寺域内から見つかった土坑から、天平勝宝2年銘の木簡をはじめ、郡・郷名や品名などが記された付札木簡や封緘木簡・題箋木簡とともに、「安居」「齋會」などの仏教行事などが記された墨書土器、物指・角筆・糸巻き・檜扇・杓子・箸などの木製品、焼塩土器などが出土しました。

時期が極めて限定された出土品の一括であり、創建後間もない国分寺で勤修された仏教行事の一端を具体的に示す資料として、その学術的価値を高く評価されたことにより、国の重要文化財に指定されました。

2023年

東広島市教育委員会



×□ 天平勝寶二年四月廿九日帳佐伯マ足嶋



七日用米三斗八升五合 廿日安藝郡□□□
 ×□五合 (下坐力)



「山方郡葆く」



「山方郡宇伎郷簀」



二
口
口
○
口
人

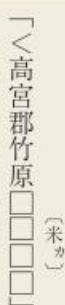


× ☐ 舗設事

☐ ☐ 枚

☐ ☐ 枚

〔蓀三力〕



9



10



〔郷米五斗力〕
〔沙田郡〕



17

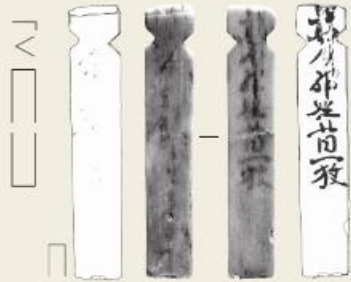


〔月カ〕
「山方郡六〇佐良」



〔佐伯郡米五斗〕

5



〔屋郷坐力〕
〔高□□□茵一枚〕

13



〔原里〕

14



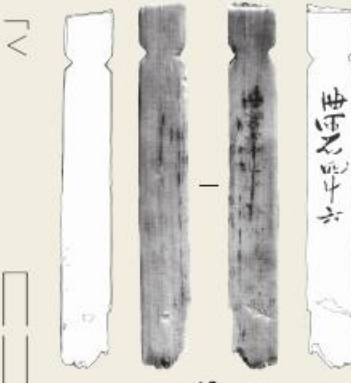
〔萬呂〕

27



〔木綿郷供料五斗〕

12



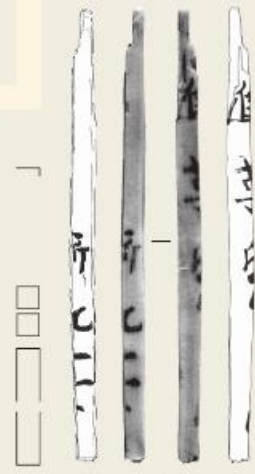
〔油四力〕
〔石四斗〕

18



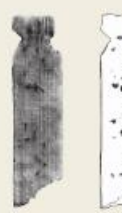
〔山〕
〔安居料力〕

19



〔進〕

28



〔加力〕
〔米石二斗五升力〕

15



〔廿連〕

20



〔小豆四〕

21



〔加力〕
〔米石二斗五升力〕

16



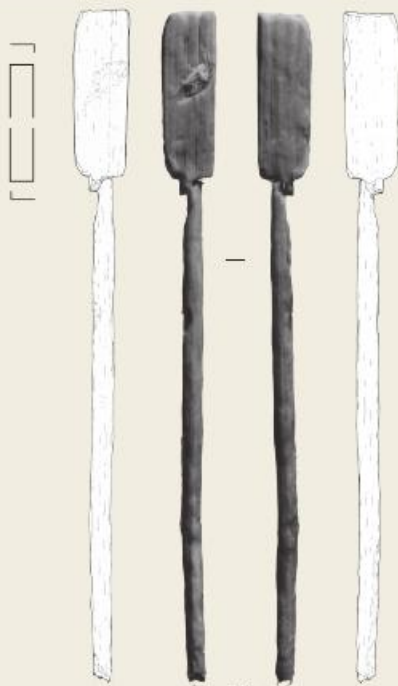
〔杓子〕

22



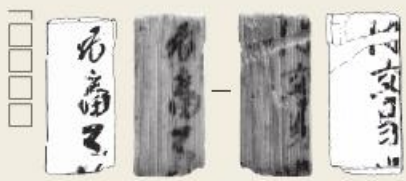
〔封〕
〔封藏木簡〕

23



〔題籤木簡〕

25



〔得力〕
〔交易〕

26



〔墨線〕
〔封藏木簡〕

24



安居

安居

84



安居

安居

85



安居

安居

86



安居

安居

87



安居

安居

88



安居

安居

89



安居

安居

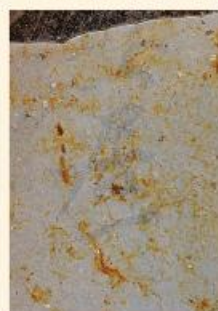
109



居

居

90



安居

安居一

91



安居

二 安居

122



居東

居東

110



齊會

齊會

83



齊會

齊會

108



齊會

齊會

99



齊會

齊會

106



齊會

齊會

107



寺前

寺前

92



寺前

寺前

93



寺前

寺前

94



寺前

寺前

95



寺前

寺前

96



寺前

寺前

111



寺

寺

117



寺

寺

97



寺

98



勝千

112



勝千

118



乙万呂

103



佛

123



大

大

100(外)



大

100(内)



大代

121



像

101



沼田

114



沼田

119



小方

113



原

102



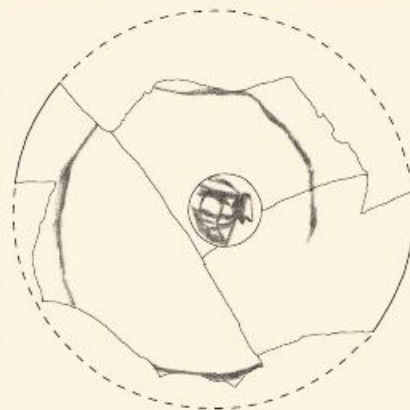
允

120



二

124



記号又は絵
105



122



117



119



110



83



123

木簡再生品



203



205



204



206

物指



237



236

糸巻



207



208

檜扇



209

檜扇



210



211



212



213



214



215

角筆



238



239



240



241



242



243

不明木製品



(糸串状)
245



(簞?)
247



(簞?)
248



(髪の留針?)
249



(髪の留針?)
250



(鳥形)
244

箸



(ササラ状)
246



224



227



228



229



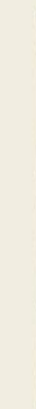
230



231



232



233

杓子



216

不明木製品



217



218



(剣形)
251



252

焼塩土器



187



195



196

土坑出土品の内訳

1. 木筒	82点
1. 墨書土器	42点
1. 土器	78点
須恵器	57点
上師器残欠	5点
焼塩土器残欠	16点
1. 木器・木製品	50点
木筒再生品	4点
糸巻残欠	2点
檜扇残欠	7点
杓子	3点
箸	17点
物指残欠	2点
角筆	6点
不明木製品	9点

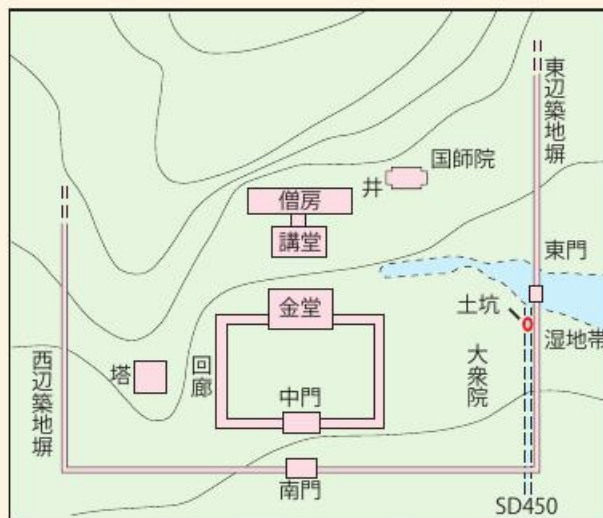
(総計252点)



土坑の調査風景



安芸国分寺歴史公園全体図



古代安芸国分寺の遺構略図

出土品が見つかった土坑

安芸国分寺が史跡に指定されて以降、公有化と並行して整備を目的とした発掘調査を進め、平成24年度に歴史公園が開園し、今では市民が歴史に触れる場として活用されています。

今回指定された出土品が見つかった土坑は、平成12年の発掘調査によって寺域の東限を画する築地塀跡の内側から検出されました。長さ約9m、幅4～5m、深さ約0.8mの南北に長い台形状の形で、破損などにより不要になった品を捨てた廃棄土坑であったと考えられます。土坑が埋められた後には8世紀後半から9世紀前半まで利用された溝が掘られており、土坑は天平勝宝2(750)年以降の8世紀後半の極めて限定された時期に利用されたと考えられます。

土坑が見つかった一帯は湿地帯が広がっており、現在に至るまで水を多く含む地区であったことから、木簡をはじめとする木製品が多く遺ったものと考えられます。

土坑出土品の意義

古代国分寺については、文献資料によると天平13(741)年に国分寺建立の詔が出されていますが、その前からお経の転読や造仏、写経、塔の建立などが命じられています。また、詔が出された後も造営が全国的になかなか進まなかったようで、度々催促が出されています。一方、全国的に古代国分寺の発掘調査が進んでいますが、建立に関わる直接的な資料は見つかっていません。

そうした中、天平勝宝2(750)年銘の木簡とともに、安芸国内の各地からさまざまな品物が送られたことわかる木簡や「安居」「齋會」といった仏教行事が記された墨書土器が一括で出土したことにより、安芸国分寺では天平勝宝2年を前後する時期には、少なくとも仏教行事を営むことのできる施設ができており、その運営には安芸国をあげて協力していたことがわかったのです。そして、どのように仏教行事が行われていたのか、その一端を知ることができました。

なお、出土品の中には、確認できる最古で遺跡出土品としては初めて確認された角筆や僧侶らの人数を確認するための「籌」として使用されたと考えられる箸、写経罫線などに利用されたと考えられる物指なども出土しており、全国の発掘調査に一石を投じる発見もありました。